T809 取扱説明書

T809-z-2607

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い下さいますようお願い申し上げます。
本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

●印刷による制限のため、本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
●本製品によって生じた、いかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
●本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

製品仕様 （改良のため予告なく変更する場合があります。）

■時　間　精　度：平均月差 ±30 秒以内（気温 25℃で使用した場合）
（電波時計による時刻修正を行わない場合 ）
■使 用 温 度 範 囲：0～ +40℃ ※結露なきこと
(外観 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
■使 用 推 奨 電 池：単３形アルカリ乾電池（LR６ 1.5V） ４個
■電　池　寿　命：約 12 ヵ月（単３形アルカリ乾電池４個を使用した場合）
■電　波　受　信：40kHz/60kHz のどちらか受信しやすい電波を受信し現在時刻に合わせる
●自動受信（最多６回 / １日）●手動受信
■時　刻　表　示：12 時間制表示、または 24 時間制表示
■カレンダー表示：2000 年１月１日～ 2099 年 12 月 31 日（フルオート）
■温　　度　　計：表示範囲：−9.9 ～ +49.9℃
※−9.9℃より低いと LL.L
+49.9℃より高いと HH.H を表示
精　　度：± 2 ℃（常温時０～ +40℃の範囲）
± 4 ℃（上記以外の範囲）
■湿　　度　　計：表示範囲：20 ～ 95%RH(%RH は相対湿度の単位です)
※20%RH より低いと LL
95%RH より高いと HH を表示
精　　度：± 5 %RH（常温時 40 ～ 80%RH の範囲)
± 8 %RH（上記以外の範囲）
■電波受信状況表示
■電池交換お知らせ表示
■置　掛　兼　用：スタンド付

※直射日光や強い光が長時間本体に当たると、部材の変形、変色、劣化の原因になります。

液晶表示について

●液晶表示は角度により見えにくくなります。
●温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなることがあります。
●０～+40℃の温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなることがあります。
●液晶表示は５年を過ぎるとコントラストが低下して、表示が見えにくくなることがあります。
●液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。

温度湿度表示機能について

●本製品は工業用(業務用)計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度湿度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
●他の製品、温度計・湿度計との誤差が発生する場合があります。
●使用温度範囲を超えた場合、故障の原因になりますので、ご注意下さい。

電池の交換について

●電池容量が不足してくると、液晶表示が薄くなることがあります。
●電池容量が少なくなると、**電池交換お知らせ表示**が点灯します。このような場合は、速やかに同じ種類の新しい電池に４個同時に交換して下さい。
※買い置きの電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により電池寿命が短くなることがあります。

リセット操作について

電池フタを開けて単３形乾電池４個を**電池ホルダ**から外して下さい。電池を**電池ホルダ**から外した直後は、静電気や内部に残っている電流により誤動作(誤表示)する場合があるため、液晶表示に何も表示されていないことを確認してから再度電池を入れて下さい。

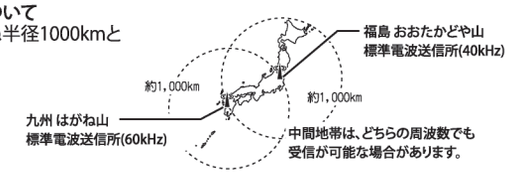
電波時計について

電波時計とは
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは
情報通信研究機構（NICT)が運用している時刻情報をのせた電波で、国内２か所の標準電波送信所からそれぞれ異なる周波数で送信されています。
※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に１秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波の送信停止について
標準電波は毎時15分と45分から各１分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波（送信停止）することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧下さい。

電波の受信範囲について
送信所からおおむね半径1000kmとされています。



日本国外でのご使用について
本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承下さい。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。
●工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
●ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
●鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
●金属製の雨戸やブラインドの近く
●高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
●自動車、電車、飛行機などの中
●家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
●スチール机などの金属製家具の上や近く
●朝・夕の時間帯や雨天のとき
※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作を行い使用する場所を変更してご使用下さい。
本書 **リセット操作について** を参照して下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス https ://jjy.nict.go.jp

自動電波受信機能について

本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

受信の状態について（電波受信状況表示と受信マーク）

■電波受信モードに入った状態です。（電波を探している状態）　点滅中

■電波受信中です。　点滅中

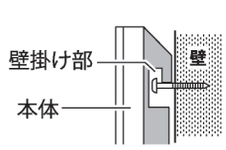
■受信に成功して時刻/日付修正を終了しています。　点灯

■受信に失敗して終了しています。
※次の受信開始(点滅)まで、表示されません。　消灯

時計の掛け方について

⚠ 注意　掛け方が不適切な場合、落下する危険があります。

●掛け具に時計を掛けた際に、時計本体を上下・左右・前後に軽く動かして、確実に掛かっていることを確認して下さい。
●時計は垂直・水平に掛けて下さい。
●ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に掛けて下さい。
●落下の原因になりますので、壁掛け部以外には掛けないで下さい。
●壁の裏側に電気配線等がある場所に取り付けると、掛け具で電気配線等を傷つけ、火災・感電につながる恐れがあります。事前に電気配線等の位置を確認し、取り付けて下さい。
●壁の材質・構造を確認の上、この時計の重さに充分耐えられる掛け具を選んで下さい。
※材質・構造がご不明の場合は、建築メーカー等へ相談して下さい。

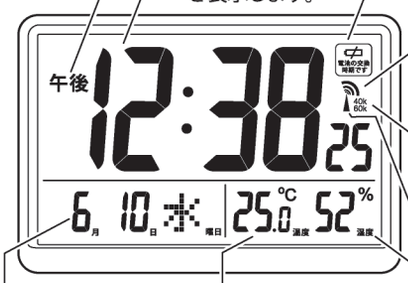


＜正しい掛け方＞



各部の名称

本体正面



■**午前/午後表示**：12時間表示のとき点灯します。

■**時刻表示**：時/分/秒を表示します。

■**電池交換お知らせ表示**：電池容量が少なくなったときに表示します。

電池交換お知らせ表示拡大図 →



■**電波受信状況表示**：電波受信のとき設置場所の電波状況を表示します。

■**電波周波数表示**：電波受信のとき表示します。(40kHz、または60kHz)

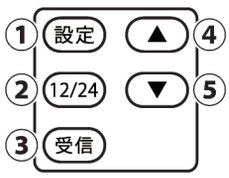
■**受信マーク**：電波受信の結果を表示します。

■**カレンダー表示**：カレンダー(月/日/曜日)を表示します。

■**温度表示**：本体内蔵のセンサーにより温度を表示します。

■**湿度表示**：本体内蔵のセンサーにより湿度を表示します。

操作部拡大図



①[**設定ボタン**]
手動時刻設定に使用します。

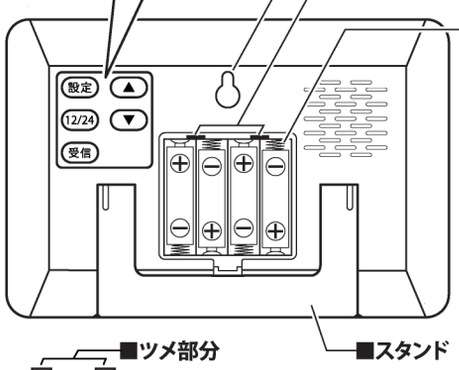
②[**12/24表示切替ボタン**]
12/24時間表示を切り替えることができます。

③[**受信ボタン**]
手動受信と受信中止するときに使用します。

④[**▲ボタン**]
設定操作中に１回押すごとに項目を加算します。

⑤[**▼ボタン**]
設定操作中に１回押すごとに項目を減算します。

本体裏面



■**壁掛け部**

■**電池フタツメ受け穴**

■**電池ホルダ**
※電池を入れるときは⊖側から入れて下さい。
※電池を外すときは⊕側から外して下さい。

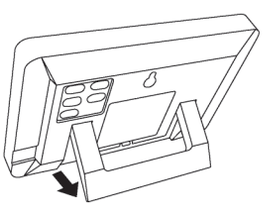
⚠ 注 意
種類の違う電池、古い電池と新しい電池などを混ぜて使用しないで下さい。電池の破裂や時計の故障の原因になります。

■**スタンド**

■**ツメ部分**



※スタンド使用例
スタンドを開き、しっかりと固定されていることを確認してからご使用下さい。



ご使用方法

①**表示ラベル**を剥がして下さい。
※**ラベルを剥がす際に、液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。**

②**電池フタ**を開けて単３形乾電池４個を⊕⊖の表示に合わせて入れ、**ツメ部分**を**電池フタツメ受け穴**に差し込み**電池フタ**を閉じます。
→液晶面を表示した後、電波の受信を開始します。
※受信中は**受信マーク**が点滅します。
※受信には最長14分かかります。

< 表示ラベル >



③受信の結果を確認する。(本書 **受信の状態について** を参照。)
●受信成功→**受信マーク**が点灯し自動的に時刻・日付を修正して表示します。
●受信失敗→**受信マーク**は消灯します。時刻・日付は修正されません。

手動受信について

T809-z-2607

電波受信が終了(**受信マーク**が点灯、または消灯)しているときに**受信ボタン**を押すと、電波受信を開始します。
※電波受信中に**受信ボタン**を押すと電波受信を終了します。

電波受信ができなかった場合は…

①手動で時刻を設定し、朝までそのままにしておく
本書 **手動で時刻を設定する** を参照して、現在時刻に合わせて時刻を設定し、一晩そのままにして下さい。一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。

②設置場所を変える／受信をやり直す
本書 **電波時計について** の **電波を受信しにくい環境** を参考に、設置場所を変えて、再度、受信をさせて下さい。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

手動で時刻を設定する

注 意
※電波受信中(**受信マーク**の点滅中)は手動による時刻設定はできません。
※設定中の点滅は約60秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。

[例] 2026年6月10日(水)午後12時38分を設定する場合

日付・(曜日)合わせ

[年(西暦)] 2026年



[月] 6月



[日] 10日



時刻合わせ

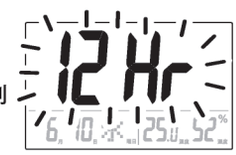
[時] 12時



[分] 38分



[12/24] 12時間制



完了



1. 設定モードに入る
通常時刻表示のときに**設定ボタン**を２秒以上押すと[年]が点滅し、日付/時刻の設定モードに入ります。

2. [年] (西暦)を設定する
[年]が点滅している間に**▲ボタン/▼ボタン**で[年]を合わせ、**設定ボタン**を押します。
※**▲ボタン/▼ボタン**は、長押しすると早送りします。

3. [月]を設定する
[月]が点滅している間に**▲ボタン/▼ボタン**で[月]を合わせ、**設定ボタン**を押します。

4. [日]を設定する
[日]が点滅している間に**▲ボタン/▼ボタン**で[日]を合わせます。
※この時点で正しい曜日が表示されます。
→**設定ボタン**を押します。

5. [時]を設定する
[時]が点滅している間に**▲ボタン/▼ボタン**で[時]を合わせます。
※[午前]と[午後]を間違えないように注意して下さい。
→**設定ボタン**を押します。

6. [分]と[秒]を設定する
[分]が点滅している間に**▲ボタン/▼ボタン**で[分]を合わせます。
※**▲ボタン/▼ボタン**を押すごとに[秒]が00に設定されます。
→**設定ボタン**を押します。

7. [12/24時間表示]を設定する
[12Hr/24Hr]が点滅している間に**▲ボタン/▼ボタン**で[12Hr]を選択し、**設定ボタン**を押します。

以上で設定が完了します。

※曜日が正しくない場合は[年(西暦)][月][日]の設定を見直して下さい。

12/24時間表示切替

通常時刻表示の時に**12/24表示切替ボタン**を押すと、12/24時間表示を切り替えることができます。